群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

支援体制が整うことからくる矛盾に挑む！

支援の整った後にある問題

・テイクは必要、でも友達ができない…
・友達はいる、のに空気のように扱われる…
・友達が手話を覚えた、でも話し合いに参加できない…

知識 ≠ 意識

支援が整う ≠ 友達と楽しい学生生活が送れる

とは限らない!?

解決方法

【意識を育てる】

ろう難聴学生と聴学生

■聴覚障害学生
- 自らの障害について聴学生に伝える（エンパワメント）
- 全部出来ないと誤解されたままにせず、どういう条件だったら出来るかを提案
- 困っていることとその解決策を提案

■大学側
- オリエンテーションで自身の障害について話す場の設定
- 先輩聴覚障害学生から周囲とのコミュニケーションの取り方について話を聞く場を設定
- 講義「手話とろう文化」「障害者と共生社会」や専門教科

知識 ＋ 経験

■聴覚障害学生
- グループ活動等での交流
- 情報保障を通して聴学生と関わる
- 講義やゼミ、サークルなどいろいろな場で聴学生と関わる
- テイカーと交換日記を行う
- テイク後、テイカーにお礼を言うよう努め、聴学生と関わる機会を増やす

■大学側
- 聴学生とろう学生の交流の場を提供

が

聴覚障害学生と深くかかわる為には…

知識 ＋ 経験 ＋ 意識 が必要

意識

■聴学生

知識 ＋ 経験
↓
意識

を育てる

高い意識がろう学生を孤独から救う

【エンパワメントを育てる】

聴学生への適切な働きかけが行える

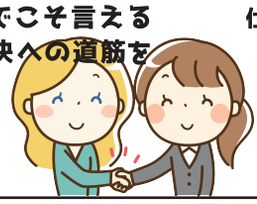
ろう難聴学生同士

- ろう難聴学生で手話を思いっきり使って会話ができる。そこにいるのは、少数の仲間の前でこそ引き出せる本当の自分。そして、仲間の前でこそ言える愚痴や本音が、解決への道筋を作る。

難聴学生とろう学生

- 同じ聴覚障害学生との出会いが、自分の障害観を変える

聞き辛さからくる
仕方なさ、恥ずかしさ、隠したさ
↓
障害と向き合い、
障害の先を見据えるようになる



●お問い合わせ先　■ 発表者代表　教育学部障害児教育専攻３年　山田茉侑
E-Mail　e13143016@gunma-u.ac.jp
■ 教育学部障害児教育講座　金澤貴之
E-Mail　kanazawa@gunma-u.ac.jp